

なぜ、スタートカリキュラム？

子供のこんな思いに

応えることができます！

スタートカリキュラムとは・・・

小学校へ入学した子供が、
幼稚園・保育所・認定こども園
などの遊びや生活を通した学びと
育ちを基礎として、主体的に自己を
発揮し、新しい学校生活を創り出し
ていくためのカリキュラムです。

本冊子を、スタートカリキュラムの編成・
実施にお役立てください。

〈参考〉

低学年では特に生活科を中核として合科的・関連的な指導
の工夫を進め、指導の効果を一層高めるようにする必要があ
る。特に第1学年入学当初における生活科を中心とした合科
的な指導については、新入生が、幼児教育から小学校教育へ
と円滑に移行することに資するものであり、幼児教育との連
携の観点から工夫することが望まれる。

小学校学習指導要領解説 総則編P51 参照

目次

理解

なぜ、スタートカリキュラム？ ……02

ゼロからのスタートじゃない！ ……04

やってみると、こんないいこと！ ……06

実践

スタートカリキュラムを創ろう！ ……08

スタートカリキュラムの特性を
生かした単元の構成 ……10

安心して学べる環境構成 ……12

改善

スタートカリキュラムのマネジメント …14



小学校ってどんなところかな？
友達できるかな？
楽しいといいな！



スタートカリキュラムに
幼児教育の考え方を取り入れることで、

安心

子供に
安心感が生まれます！

入学に際して、子供は期待と同時に不安を抱えています。
スタートカリキュラムにおいて、幼児期に親しんだ活動
を取り入れたり、分かりやすく学びやすい環境づくりをし
たりすることで、子供は安心して小学校での生活をスター
トすることができます。また、先生や友達と関わる活動
を通して、出会いの喜びや学校の楽しさを感じることがで
きます。

こうした安心や楽しさは小学校での生活の支えとなり、
いわゆる小1プロブレムなどの予防や解決にもつながります。



学校楽しいよ！

明日も学校へ来たい！

成長

子供が自信をもち、
成長していきます！

園ではいろいろなことをしてきたよ。
学校ではどんなことをするのかな？
早く知りたい、やってみたい！



スタートカリキュラムで
幼児期の経験を小学校の学習につなぐと、

子供は、幼稚園・保育所等で、遊びを通して試したり、工
夫したり、友達と協力したり、自分の思いを伝えたり、話合
いをしたりするなど、たくさんのことを経験しています。

スタートカリキュラムにおいて、そうした幼児期からの
学びと育ちを生かす活動や環境を意図的に設定すること
で、子供は自信や意欲をもって活動し、自己発揮できるよう
になります。

こうした学習の姿が、先生や友達に認められることで、自
己肯定感が生まれ、よりよく成長していくことができます。



春の帽子ができたよ！



お兄さん、お姉さんはすごいな。
あんなふうになりたいな！
私にも、できるかな？



スタートカリキュラムを入り口として
6年間を見通すことが、

自立

子供の
自立につながります！

子供は、幼児期に「学びの自立」、「生活上の自立」、「精
神的な自立」につながる経験をしています。

この「三つの自立」を基盤としながら、生活科を中心と
したスタートカリキュラムを学校全体で検討し編成する
ことで、子供主体の学習活動を展開することができます。

こうしたスタートカリキュラムを実施することで、子
供は、自分で考え、判断し、行動することを繰り返し、自
立に向けて歩んでいきます。それは、小学校6年間の土
台となります。



自分たちで探検するよ！

ゼロからのスタートじゃない！

子供は幼児期にたっぷりと学んでいます

幼児期 学びの芽生え

- 楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- 遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- 日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。



幼児教育

- 5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を総合的に学んでいく教育課程等
- 子供の生活リズムに合わせた1日の流れ
- 身の回りの「人・もの・こと」が教材
- 総合的に学んでいくために工夫された環境の構成 など

スタートカリキュラム

自立

成長

安心

児童期 自覚的な学び

- 学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- 各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- 主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。



小学校教育

- 各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- 時間割に沿った1日の流れ
- 教科書が主たる教材
- 系統的に学ぶために工夫された学習環境 など

学びの芽生えと自覚的な学びをつなぐスタートカリキュラム

子供は、発達の段階に応じて様々な対象と直接的、間接的に関わりながら学んでいます。

幼児期の教育は、5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程等に基づいて実施されています。一方、児童期の教育は、各教科等の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施されています。このことが幼児期と児童期の教育の大きな違いと言えます。そこで、子供が新しい学校生活に円滑に移行していくためのスタートカリキュラムが必要となるのです。

スタートカリキュラムとは、小学校に入学した子供が、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生

活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。つまり、ゼロからのスタートではないのです。

入学当初は、学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることが大切です。生活科を核として楽しいことや好きなことに没頭する中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが有効です。

やってみると、こんないいこと！

みんなが安心、みんなが育つ



教育委員会
からの声

スタートカリキュラムに関して

スタートカリキュラムに関して、モデルプランの発信や実践事例集の配布など、普及のための取組を始めて3年目になります。その結果、本年度のスタートカリキュラム実施率は100%となりました。それに伴い、いわゆる小1プロブレムが発生した学校の割合が、平成23年度19%、24年度12%、25年度10%と半減しました。こうした成果は、スタートカリキュラムの実践や入学前からの情報交換など、幼児教育と小学校教育をつなぐ取組によるものであると考えています。

園からの声

スタートカリキュラムの授業を参観して

幼児期からの学びと育ちを大切にしたいスタートカリキュラムは、園で大切にしてきたことが小学校につながっていくのだということが分かりました。子供は楽しさを感じながら集中して学んでいました。教え込むのではなく、自分から学んでいけるように工夫していました。園でも協同的な遊びを通した総合的な指導を積極的に取り入れて、小学校でのスタートカリキュラムにつなげていきたいと思っています。

スタート
カリキュラムを
やってみると...

1年生に こんないいこと！

安心

- 幼稚園・保育所等の生活に近い活動を取り入れるので、安心して学習に取り組むことができます
- 分かりやすく学びやすい環境を構成することで、安心して学校生活を送ることができます
- 安心や楽しさが生まれ、いわゆる小1プロブレムなどの予防や解決にもつながります

とっても心配だったけど、
学校って楽しいよ！

明日も学校に行きたいな！

みんなでいると楽しいな！

友達がたくさんできたよ！

優しい先生がたくさん
いるよ！

鉛筆で字を書くのって
楽しいな！

成長

- 活動や体験を通して、学びに向かう力を育むことができます
- 安心して生活することで、自分のもっている力を発揮することができます
- 先生や友達に認められることで、自信や意欲が生まれます

友達と力を合わせると
いろいろなことができるよ！

一人のできるよう
になったよ！

自立

- 自分で考え、判断し行動するようになり、子供の自立につながります
- 6年間の学びの基盤をしっかりとつくることができます
- 夢や希望をもち、前向きに生活していくことができます

みんなに向かって
発表したいな！

やりたいことに
チャレンジするぞ！

他学年の子供にもいいこと！



- 1年生と関わることで、みんなが仲良くなります。
- 1年生のよさが分かり、一人一人を大切にする気持ちが育ちます。
- 上級生としての自覚と責任が生まれます。

1年生の担任にもいいこと！



- これまでの見方や指導観が変わり、教師力が高まります。
- 特別な教育的支援が必要な子供にとっても、効果的な取組となります。

学校にもいいこと！



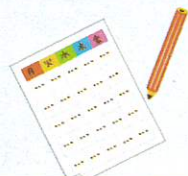
- スタートカリキュラムを学校全体で取り組むことで、スムーズに小学校の生活に適応していく子供の姿が見られます。意欲的に活動する子供の笑顔あふれる学校になります。
- 6年間を見通した小学校教育全体の改善へとつながります。

保護者にもいいこと！



- 学校生活への不安が解消され、安心して学校に送り出すことができます。
- 学校への理解と信頼につながり、協力が得られます。
- 子供が自ら成長する姿を通して、保護者の意識も高まります。

スタート カリキュラムを 創ろう!



基本的な考え方

一人一人の子供の成長の姿から 編成しよう

入学時の子供の発達や学びには個人差があり、それぞれの経験や幼児期の教育を踏まえたきめ細かい指導が求められます。そのため、幼稚園教育要領、保育所保育指針等を読んだり、実際に幼稚園・保育所等を訪問し教職員と意見交換をしたり、要録等を活用したりして、幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を生かしてスタートカリキュラムを編成しましょう。

子供の発達を踏まえ、 時間割や学習活動を工夫しよう

入学時の子供は、鉛筆や教科書を使う学習に憧れをもっています。一方、長い時間、じっと椅子に座って学習することが難しく、身体全体を使って学ぶという発達の特性があります。この時期の子供の学びの特徴を踏まえ、例えば、20分や15分程度のモジュールで時間割を構成したり、活動性のある学習活動を行ったりするように工夫しましょう。

生活科を中心に合科的・関連的な 指導の充実を図ろう

自分との関わりを通して総合的に学ぶ子供の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図りましょう。このような指導により、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となります。

安心して自ら学びを広げる 学習環境を整えよう

子供が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるよう学習環境を整えましょう。子供の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で子供を取り巻く学習環境を見直しましょう。

手順

スタートカリキュラム編成の手順

基本的な考え方を踏まえ、例えば①～③を通してスタートカリキュラムを編成することが考えられます。

学びの芽生え
(幼児期)

①幼児期の子供を理解する

自覚的な学び
(児童期)

②期待する成長の姿を共有する

③スタートカリキュラムを編成する

- ☐ 成長の姿を週や月の単位で明らかにする
- ☐ 成長の姿に適合した単元(合科・関連など)を構成し配列する
- ☐ 単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する

長いスパンで考える

例えば、以下の視点で学習を3類型に分類し、重点の置き方を考えて単元や学習活動を配列します。

	一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習
	合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習
	教科等を中心とした学習

例えば 入学から夏休みまでのカリキュラム

時期	4月第1週 ～第2週	4月第3週 ～4月末頃まで	5月頃	6月頃	7月頃
ねらい	・心をほぐす ・学校に対する安心感 ・先生や友達と仲良く	・自分にできることは自分で ・新しい集団のルールを考える		・関わりを広げる ・自己発揮・主体性の発揮	
学習の時間配分	3類型に分類した学習の時間配分				

週単位で考える

長期的な視点で配列した単元や学習活動を、週案の形で具体化します。

例えば 4月第2週のカリキュラム

今週のねらい【先生や友達と仲良くなる】			
	4 / 13 (月)	4 / 14 (火)	4 / 15 (水)
朝の会	「なかよくなるう」*	「なかよくなるう」*	「なかよくなるう」* ・手遊び ・お話聞いて ・お話読んで ・歌って踊ろう
1	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	・手遊び ・お話読んで ・お話聞いて ・歌って踊ろう	「がっこうだいすき なかよしいっぱい」 国・図・生 ・学校探検に行こう
2	「がっこうだいすき なかよしいっぱい」 国・図・生 ・学校探検に行こう	「がっこうだいすき なかよしいっぱい」 国・図・生 ・学校探検に行こう	・見付けたものや人をお知らせしよう
3	・学校のはてなやびっくりを見付けよう	・学校のはてなやびっくりを見付けよう	「おはなしよんで」(国) 「いくつか」(算)

週のねらいの設定

身近な友達や先生との関わりから集団づくりへ、教室から学校全体へ、主体的に学び自分らしさを発揮できる活動へと、徐々にステップアップしていくねらいを定めることが考えられます。

子供の生活リズムに合わせた 時間の設定

朝の会から1時間目に掛けて、幼児期に親しんできた遊びや活動を取り入れたり、友達と仲良く交流する活動を行ったりすることで、生き生きと楽しい気持ちで1日の学校生活を始めることができます。

学習活動の配列や 時間配分の工夫

1日の流れを意識して学習活動を配列したり、子供の実態や学習活動に応じてモジュール学習や2時間続きの学習にしたりして、時間配分を工夫することが考えられます。

※この時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられます。(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要があります。)

スタートカリキュラムの特性を生かした単元の構成

～「がっこうだいすき なかよしいっぱい」～

入学当初の学校探検は、1年生が小学校に入学して初めて学校生活の主人公としてデビューする、ワクワク・ドキドキの単元です。スタートカリキュラムとして、小学校の学びへと橋渡しをしていく単元としても考えることができます。学校全体で支えて、子供の学びを豊かにしたいものです。

学びを豊かにするポイント

思いや願いを生かした学習活動を構成する

生活の中で見付けた疑問を解決したり、子供の思いや願いを実現したりすることで学ぶことへの意欲を高めていきます。そのためにも、子供のつばやきを大切に、子供の意識の流れに沿った学校探検の計画を立てて実践しましょう。

体験をきっかけにして各教科等につなげる

学校探検を通して、見付けたり、遊んだり、不思議だなと感じたり、やってみたいと思ったことが、「話したい」、「伝えたい」という気持ちにつながります。それは、例えば国語科における「話す・聞く」の学習活動などの動機付けとなり、格好の学習材となります。

生活上必要な習慣や技能が身に付くように指導する

学校の公共性に意識を向けることで、学校の施設はみんなのものであること、学校にはみんなで気持ちよく生活するための決まりやマナーがあることなどに気付いたり、学校生活のリズムを身に付けたりすることができるように指導することが大切です。

Let's 学校探検



「学校のこと、もっと知りたいな」
「私も行きたい」

入学当初の子供にとって学校は不思議や驚きでいっぱい。そのわくわく感を大切に探検を始めましょう。



「音楽室の『謎の的』は、何ですか」
「あれは、声の的です」

自分の謎を解決するために、進んでインタビューする子供たち。クラスの友達とインタビューの練習をしてから、探検に出掛けます。



「わあ、お皿がたくさんあるね」
「お鍋も大きいよ」

大きな鍋、調理員さんの長いエプロン、厚い手袋。給食室には、学校の施設や人に興味をもつきっかけがたくさんあります。



「先生、あのね。こんなに大きなお鍋があったんだよ」

子供は、探検での発見や驚きをすぐ伝えたい。教師は、子供の思いをしっかり受け止め、次への活動につなげましょう。



「先生、絵に描きたいな」
「私も」

豊かな体験をすると子供は絵を描きたくなります。図画工作科における「感じたことから表したいことを見付けて表す」の学習活動と合科的に指導します。



「音楽室の上に、『謎の的』がありました。何の的だろうと思いました」

子供は、自分で発見したことを伝える中で、話し方を学んでいきます。国語科における「声の大きさや速さに注意してはっきり話す」の学習活動と合科的に指導します。



「わあ、きれいな声が聞こえるよ」
「何年生かな」

目に見えるものだけでなく、音やにおいなど諸感覚を働かせて探検する子供たち。発見した驚きが、次々と探検する場所を広げていきます。



「廊下は静かに歩いていくといいよ」
「幼稚園でもそうだったよ」

次の探検では自分の経験を基に、学校のルールやマナーを確認していきます。



「優しく教えてくれたよ」
「声を集める的だなんて、びっくり」

繰り返し探検する中で、子供は、学校の施設やそこで働く人に出会います。発見した喜びを家の人にも伝えたいくなります。



「学校って楽しいよ」
「学校のことをたくさん教えてくれて、お母さんも嬉しいわ」

自信をもった子供は、また、次の活動にチャレンジしていきます。



安心して学べる環境構成

スタートカリキュラムの実施に当たっては、子供が安心して学べる学習環境を整えることが大切です。その際、一人一人の子供の発達や実態を踏まえること、友達との関わりが増え人間関係が広がること、学びの動機付けとなることなどに配慮し、学校全体を見直しましょう。



職員室前でも！

失礼します。1年1組の吉川ゆりです。池田先生に連絡帳を届けに来ました。

ゆりさん、上手にお話できましたね。ありがとう。

校門でも！

かずひろさん、おはようございます。今日も元気な挨拶で先生も元気になったよ。

校長先生、おはようございます。

校庭でも！

草刈りの準備をしているんだよ。

校内のいろいろなところで！

自分でできる

自由に遊べる時間や場所を用意することで、自分で活動を選び、自分から取り組んでいきます。そのことで、自ら学びに向かっていく意欲も湧いてきます。また、集団での活動が苦手な子供には、落ち着いて活動することができるコーナーを用意するとよいでしょう。



目で見て分かる

一日の予定や活動の手順が、文字や絵、写真などで提示されることで、見通しをもち、安心して活動することができます。クラス表示やトイレ表示などは、子供の目の高さに設置することが大切です。音声言語だけでは内容や指示が十分に理解できない子供も迷わずに活動できます。



友達ができる

入学当初、園と同じような生活空間を意図的につくります。例えば、机を班の形にすることで友達との距離がぐんと縮まります。そのことが子供の安心感にもつながります。さらに人間関係が豊かになります。



集中できる

教室の前面掲示や板書はシンプルで分かりやすいことが、子供の混乱を防ぎ、理解を助けます。読み聞かせのときは、教師の近くに子供を集め、表情豊かに語り掛けることで集中して聞くことができます。



学びのきっかけをつくる

教室の背面や側面に子供の絵や文、学びの足跡を掲示します。子供はそれを見ながら、次の活動の意欲を高めたり、自分から進んで活動したりします。



笑顔で支える

子供にとって大切なもの、それは先生の笑顔。そして、共感のまなざしです。子供に関わる全ての人が、学校、家庭、地域で子供を見守り支えていく意識をもつことが大切です。



池の近くでも！

あれ、何か動いてるよ。

あっ、本当だ。オタマジャクシだよ。

わあ、すごくたくさんいる。捕まえないな。育ててみたいな。

何をしているんですか？

スタートカリキュラムのマネジメント

子供の姿が出発点

PLAN

3月末までに

校内組織を立ち上げて準備しよう

- ☐ 意義、考え方、ねらいなどを全教職員で共通理解し、保護者へ説明する
- ☐ 幼稚園・保育所等への訪問や教職員との意見交換、要録等から子供の実態をつかみ、指導や支援、子供のよさを小学校につなぐ
- ☐ スタートカリキュラムを編成する

校内組織例「スタートカリキュラム作成委員会」

校長、教頭、教務主任、現1年担任、新1年担任、生活科主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなど

子供を知ろう！

～園に行ってみよう～

園では、子供の主体性を大切にしています。生活リズム、環境の構成や教師の関わり方など、4月からの授業につながるポイントをたくさん知ることができます。

保護者に伝えよう！

～入学説明会～

園での生活が小学校生活の基盤になることを伝えましょう。保護者の安心が子供の安心につながります。

DO

4月から

全校で協力体制を組みスタートカリキュラムに取り組もう

保護者に伝えよう！

～学級便り・懇談会など～

子供が興味・関心をもって学習に取り組む様子を保護者にエピソードで語りましょう。活動を通して、主体的に学ぶ姿を保護者にも理解してもらうことは、保護者の意識の変容につながります。

- ☐ 学級担任だけでなく、全教職員で協力体制を組み、見守り、育てる
- ☐ 発達の特性を生かし、具体的な活動や体験を取り入れた授業を工夫する
- ☐ 環境構成を工夫し、安心感がもてるようにする

協力体制の例

- ☐ 入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入ることができるよう、学校全体で時間割を調整する。そうすることで、他学年の担任も間接的にスタートカリキュラムに協力することができる。



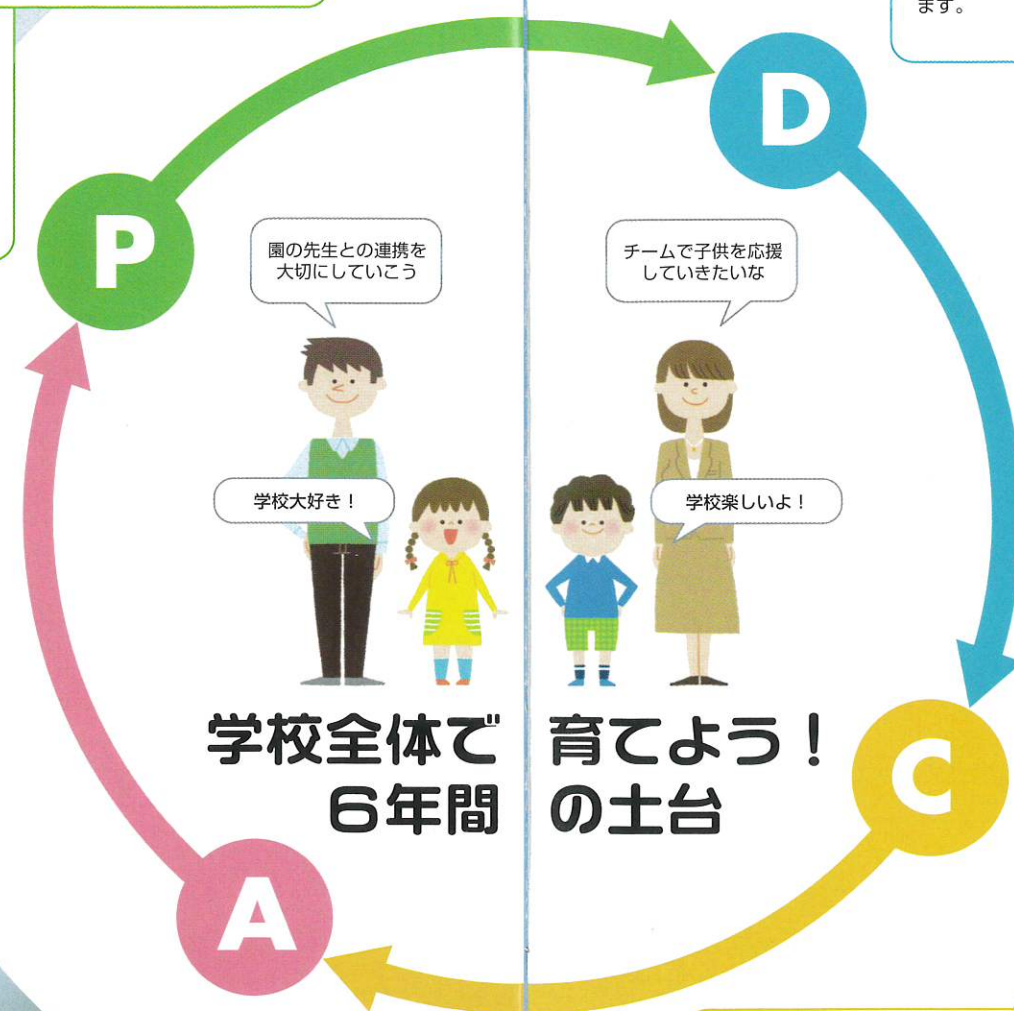
ACTION

時期を捉えて、反省・検証・改善しよう

- ☐ 長期休業後の学校生活への適応に向けて、夏休み明けの子供への指導に改善点を生かす
- ☐ スタートカリキュラムの改善のために、週案などの資料をデータベース化し共有する
- ☐ 1月から3月に掛けて、次年度のスタートカリキュラムの改善を図る

改善の例

- ☐ 連休明けに不安になった子供が多かったので、夏休み明けに心をほぐす活動を取り入れる
- ☐ 写真入りで手順を示すと落ち着いて生活できたので、子供の目線で学習環境を見直す
- ☐ 次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて、幼稚園・保育所等の教職員との合同研修を計画する



園の先生に参観してもらおう

参観後、子供の姿や指導の在り方について気が付いたことを話し合いましょう。園での様子と比較することで、子供の成長を実感することができます。

CHECK

子供の姿・指導の在り方を語り合おう

- ☐ 取組がねらいに沿っているか、子供の姿で日々評価する
- ☐ 学年会などで、子供の成長する姿や指導方法について情報交換する
- ☐ スタートカリキュラム作成委員会や職員会議などで、実施状況を共有する

評価方法の例

- ☐ 子供の姿を週案などに記録する
- ☐ 子供の書いたものや作品を使って評価する
- ☐ 様々な立場から子供の様子を捉え評価する

